

# 長 崎 県 観 光 統 計

平成20年（1月～12月）



長崎県観光振興推進本部

# 目 次

1 . 観光を取り巻く全国の状況	4
2 . 長崎県の動向	6
(1) 概要	6
(2) 地域ブロック別動向	8
(3) 日帰り・宿泊別観光客の動向	13
(4) 地元・県内・県外別観光客の動向	14
(5) 外国人宿泊客の動向	16
(6) 修学旅行宿泊客の動向	18
3 . 長崎県の観光消費額の動向	19
(1) 平成20年の観光消費額	19
(2) 日帰り客の動向	19
(3) 宿泊客の動向	20
<地図> 市町・ブロック別観光客延数の状況	21
資料編	23

# この統計表の見方

## 用語の解説とそれらの相関関係

(A) 観光客延数・・・観光の活動量を日単位で表すもので、当該地を訪れた観光客の滞在日数の合計としての入込者数で表される。

<算式で表すと>

$$\text{観光客延数} = \text{宿泊客延滞在数} + \text{日帰り客数}$$

(B) 宿泊客延滞在数・・・次の2つの要素を合計したもので、当該地に来訪した宿泊をともなう観光客の滞在日数の合計としての入込者数で表される。

<要素>

(1) 宿泊客実数・・・何泊したかを問わず当該地に宿泊した観光客の合計

(2) 延宿泊数・・・当該地の宿泊観光客の延宿泊数の合計

<算式で表すと>

$$\text{宿泊客延滞在数} = \text{宿泊客実数} + \text{延宿泊数}$$

(3) 平均宿泊数・・・当該地の宿泊観光客が平均何泊するかを表すもので、必ず1(泊)以上として表される。

<算式で表すと>

$$\text{平均宿泊数} = \text{延宿泊数} \div \text{宿泊客実数}$$

(C) 観光客実数 = 日帰り客数 + 宿泊客実数  
= 地元客 + 県内客 + 県外客

## 具 体 例

2人が3泊し、1人の日帰りがあった場合

宿泊客実数・・・2人

延宿泊数・・・6人 = (2人 × 3泊)

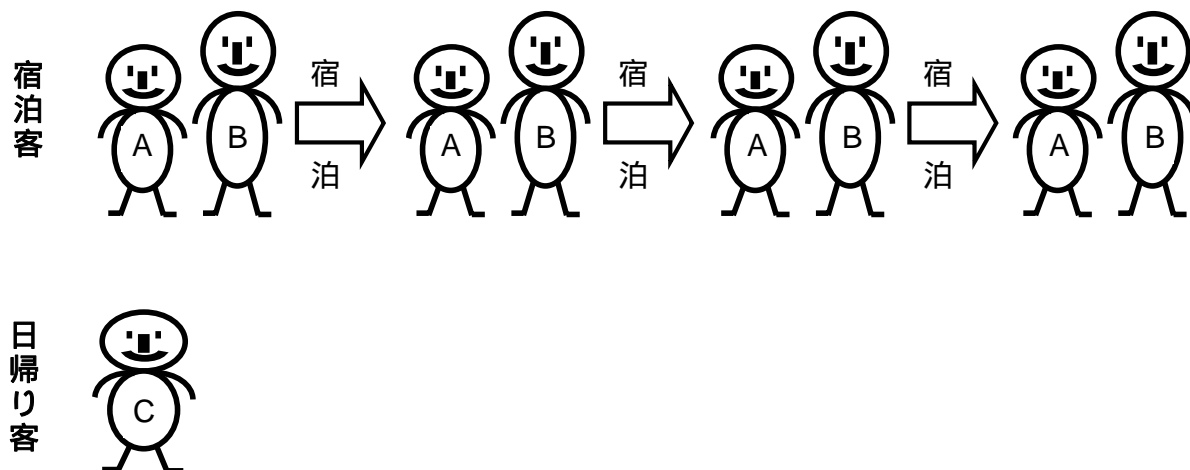
宿泊客延滞在数・・・8人 = (2 + 6)

日帰り客数・・・1人

観光客延数・・・9人 = (8 + 1)

観光客実数・・・3人 = (2 + 1)

図 解



## 調査概要

作成にあたっては、宿泊施設における聞き取りや県内各ブロックの主要観光施設の入り込み状況、航路・空路の乗降客数等を考慮し、平成20年12月31日現在の各市町が推計したものを県において集計したものである。

## 地域ブロック区分

この統計表における地域ブロック区分は以下のとおりである。

長 崎 ・ 西 彼：長崎市、長与町、時津町  
佐 世 保 ・ 東 彼：佐世保市、東彼杵町、川棚町、波佐見町  
島 原 半 島：島原市、雲仙市、南島原市  
諫 早 ・ 大 村：諫早市、大村市  
平 戸 ・ 松 浦 ・ 北 松：平戸市、松浦市、小値賀町、江迎町、鹿町町、佐々町  
西 海：西海市  
五 島：五島市、新上五島町  
壱 岐：壱岐市  
対 馬：対馬市

## 再算定について

近年、市町村合併の進行等により、複数の市町において観光客数の算定方法見直しが行われている。この統計表においては、前年からの増減を正確に把握するため、見直しを実施した前年の数値について再算定を実施し、再算定前の数値と併せて掲載している。（ただし、平成17年以前については、再算定後の数値のみを掲載している）

なお、本年は、佐世保市において算定方法の見直しが行われたため、平成19年の数値について再算定を行っている。

## 平成 20 年長崎県観光統計

長崎県の観光客数 28,241,169 人 (対前年 1.4%減)

平成 20 年 1 月から 12 月まで

～ 平成 19 年の 28,641,420 人と比べ、400,251 人の減少 ～

(単位：人、%)

	平成 19 年	平成 20 年	増 減	対前年
観光客延数	28,641,420	28,241,169	400,251	1.4
日帰り客数	17,226,737	17,086,474	140,263	0.8
宿泊客延滞在数	11,414,683	11,154,695	259,988	2.3

(注) 佐世保市において、平成 20 年から観光客数の算定方法が一部変更されているため、平成 19 年の数値は、同じ方法により推計した再算定数値を用いている。

< 参考：平成 19 年数値 >

(単位：人)

	昨年統計	再算定	増 減
観光客延べ数	29,386,093	28,641,420	744,673
日帰り客数	17,862,062	17,226,737	635,325
宿泊客延滞在数	11,524,031	11,414,683	109,348

### 1. 観光を取り巻く全国の様況

#### (1) 国民の観光動向

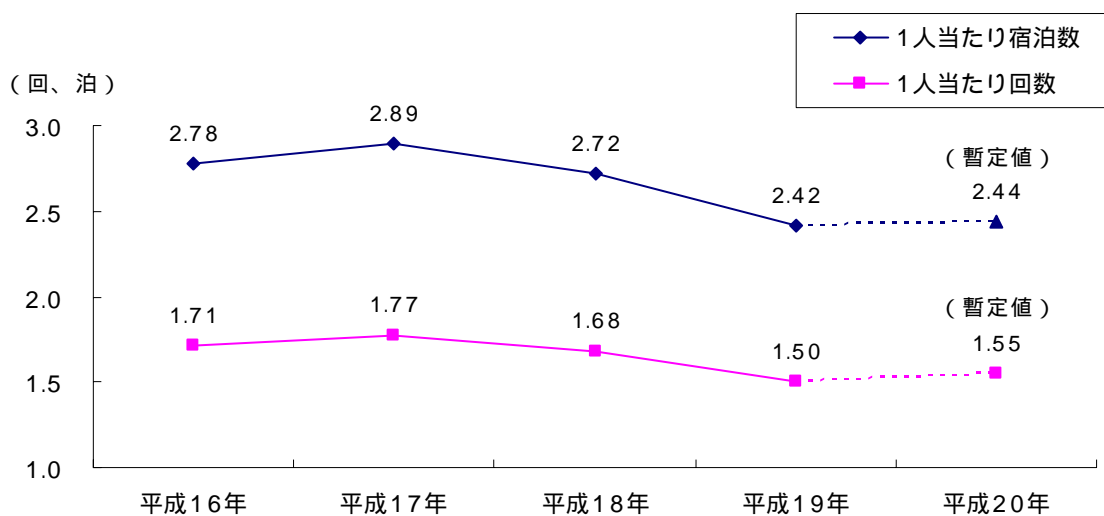
観光白書(平成 21 年版)によると、国民一人あたりの国内宿泊観光旅行は、平成 3 年をピークに減少傾向にあり、平成 20 年度(推計値)は 2.44 泊と推計され、19 年度の 2.42 泊から 0.8% 増とほぼ横ばいであった。(参考 1-1 参照)

また、主要旅行業者 63 社の国内旅行取扱額を見ると、上半期は比較的好調に推移していたものの、下半期に落ち込んだため、年間を通した取扱額は 4 兆 205 億円と前年に比べ 139 億円減少(0.3%)した。

(2) 訪日外国人の動向

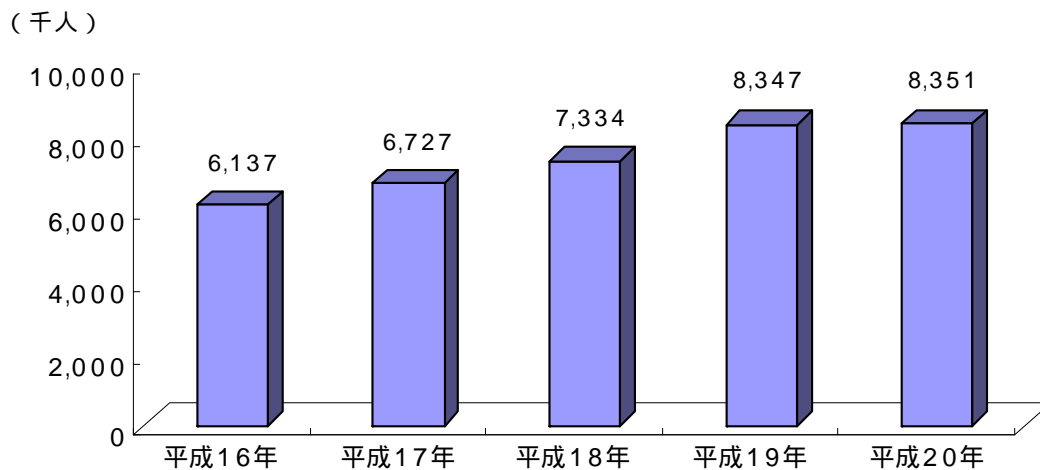
日本政府観光局（JNTO）によると、平成20年（1～12月）の訪日外客数については、官民連携によるビジット・ジャパン・キャンペーンの効果等により、上半期に対前年10%増を記録したが、下半期には世界金融危機による景気後退と円高急進の影響を受け、対前年8.8%減となった。その結果、年間では、ほぼ横ばい（対前年0.0%増）の835万1千人となった。（参考1-2参照）

(参考1-1) 国内宿泊旅行の回数及び宿泊数の推移



注) 「平成21年版観光白書」(国土交通省)より引用

(参考1-2) 訪日外国人旅行者数の推移



注) 法務省資料により作成

## 2. 長崎県の動向

### (1) 概要

平成20年の観光客延べ数は、対前年40万人減(1.4%)の2,824万人であり、これまでの増加傾向から一転して4年ぶりに減少した。

宿泊客は、3年ぶりに減少し、対前年2.3%減(26万人)の1,115万人、日帰り客は、対前年0.8%減(14万人)の1,709万人であった。

平成20年の特徴として、上半期(1~6月)と下半期(10~12月)で観光を取り巻く状況が大きく変動したことがあげられる。すなわち、上半期については、ガソリン代の高騰、円高基調で推移した為替相場などのマイナス要因はあったものの、県内各地での観光地づくりへの地道な取り組みや県及び県観光連盟の誘客活動も奏功し、観光客数は増加基調を維持していた。

ところが、下半期に入ると、世界的な経済情勢の急激な悪化や、原油価格の更なる高騰による離島へのアクセス条件の悪化等により、観光客数は上半期の増加を大きく上回るペースで減少した。その結果、3年連続で増加していた観光客数は、4年ぶりに減少に転じる結果となった。

県内を9つの地域ブロックに分けて見ると、日帰り客、宿泊客ともに前年を上回ったのは「島原半島」1ブロックのみ。観光客延数が前年を上回ったのは、「島原半島」に加え、「対馬」、「平戸・松浦・北松」、「諫早・大村」の計4ブロックであった。

一方で、他の5ブロックは観光客延数が前年を下回った。「佐世保・東彼」ブロックでは下半期の外国人客の減少、「五島」、「壱岐」ブロックでは原油価格高騰による航路の運賃値上げや減便、「西海」ブロックでは19年中の観光施設・宿泊施設の廃業による影響が大きかったと考えられる。

図1 年次別観光客数の推移

(単位：万人)

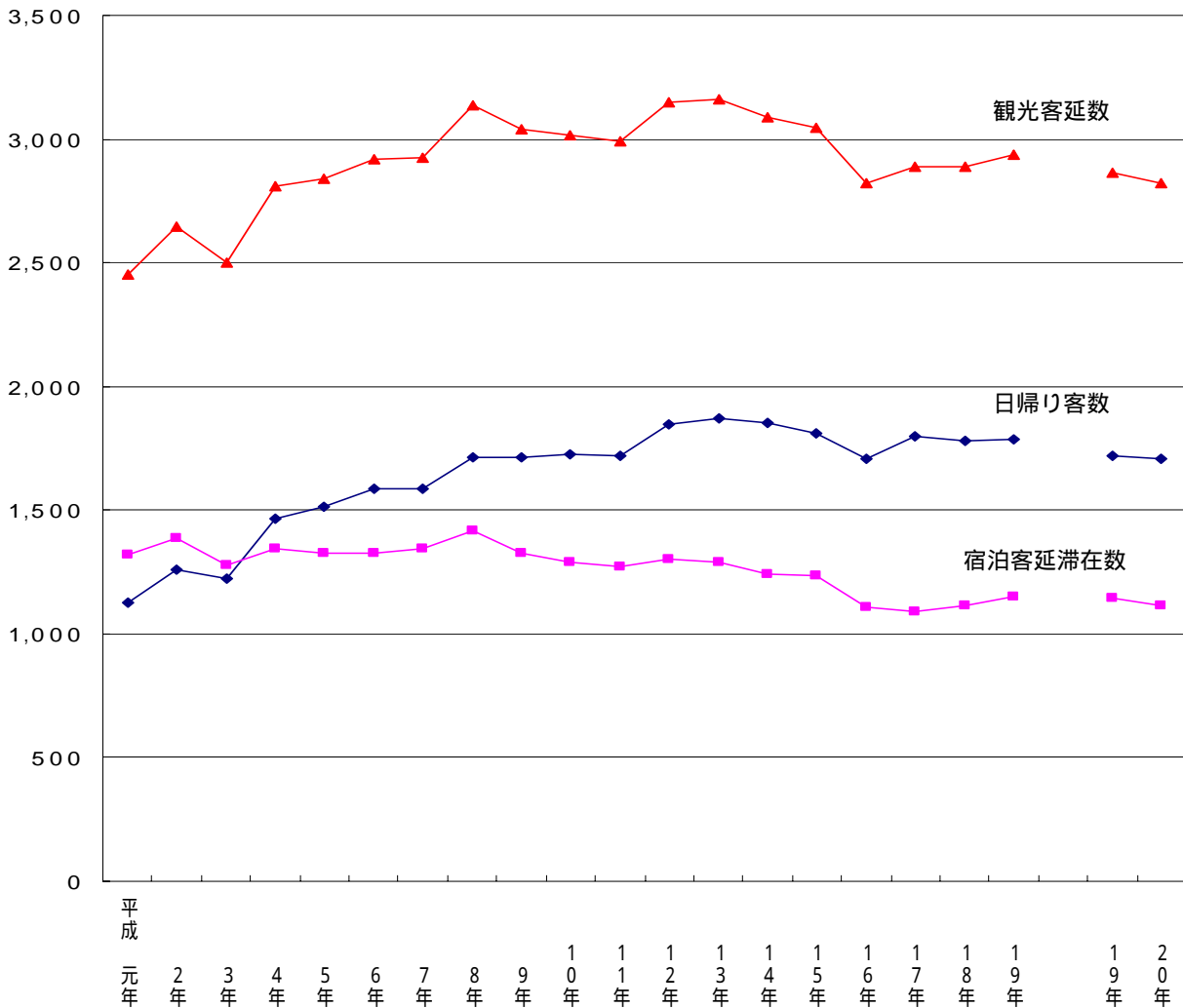


表1 年次別観光客延数

(単位：人、%)

	平成元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
日 帰 り 客 数	11,287,845	12,608,679	12,222,604	14,655,842	15,160,766	15,894,990	15,841,558
宿 泊 客 延 滞 在 数	13,212,523	13,848,885	12,766,687	13,459,773	13,233,997	13,273,351	13,416,172
観 光 客 延 数	24,500,368	26,457,564	24,989,291	28,115,615	28,394,763	29,168,341	29,257,730
観光客延数対前年比		5.7	8.0	5.5	12.5	1.0	2.7

	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
日 帰 り 客 数	17,157,673	17,163,324	17,250,216	17,177,600	18,487,513	18,721,267	18,520,091
宿 泊 客 延 滞 在 数	14,181,579	13,249,913	12,925,278	12,735,733	13,023,324	12,909,637	12,387,786
観 光 客 延 数	31,339,252	30,413,237	30,175,494	29,913,333	31,510,837	31,630,904	30,907,877
観光客延数対前年比		7.1	3.0	0.8	0.9	5.3	0.4

	15年	16年	17年	18年	19年	19年	20年
日 帰 り 客 数	18,132,884	17,100,884	18,009,465	17,778,715	17,862,062	17,226,737	17,086,474
宿 泊 客 延 滞 在 数	12,349,760	11,107,246	10,890,687	11,127,760	11,524,031	11,414,683	11,154,695
観 光 客 延 数	30,482,644	28,208,130	28,900,152	28,906,475	29,386,093	28,641,420	28,241,169
観光客延数対前年比		1.4	7.5	2.5	0.0	1.7	1.4

注1) 「19年」は、佐世保市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

注2) 平成14, 15, 16, 17年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値を記載している。

## (2) 地域ブロック別動向

長崎・西彼ブロック(577万人、対前年 1.0% 57千人)

長崎市：5月開催の日本外科学会定期学術集会や11月の列福式など、県外から多くの集客がある大型コンベンションが開催されるなどのプラス要因があったものの、経済情勢の悪化等により、日帰り客、宿泊客ともに減少し、観光客延べ数は対前年1.4%減(81千人)となった。

佐世保・東彼ブロック(714万人、対前年 5.2% 394千人)

佐世保市：佐世保バーガー・九十九島カキなどのグルメ観光は引き続き好調であるが、原油高・景気後退等の影響を受け、観光客延べ数は対前年7.0%減(449千人)となった。本県の中でも特に外国人観光客が多い都市であるため、外国人観光客の減少の影響を大きく受けたことや、新水族館建設のために西海パールシーセンターが9月から閉館していることも減少要因となった。

島原半島ブロック(603万人、対前年+1.9% +114千人)

島原市：前年に火山都市国際会議が開催された反動や景況感の悪化などのマイナス要因が重なったものの、誘致活動を強化しているスポーツ関係の大会・合宿に伴う集客や映画「まぼろしの邪馬台国」による知名度の向上等により、観光客延べ数は対前年1.1%増(+8千人)となった。また、島原城、雲仙岳災害記念館などの主要観光施設の観光客数も増加している。

雲仙市：雲仙温泉を中心に旅行会社の企画商品は好調であったが、ガソリン価格高騰による県外客の減少や夏以降の経済情勢悪化による外国人観光客の減少などのマイナス要因により宿泊客数は減少した。一方、10月に開催された棚田サミットなどの各種イベントにより、日帰り客は増加したため、観光客延べ数は対前年2.5%増(+95千人)の389万人となり、2年連続での増加となった。

南島原市：景気後退等の影響により日帰り客数は減少したものの、平成19年に宿泊施設が新規開業したこと等の要因により、宿泊客数は対前年81.1%増(+57千人)と大幅に増加し、観光客延べ数は0.8%増(+11千人)となった。

諫早・大村ブロック(298万人、対前年+0.6% +18千人)

諫早市：白木峰高原や諫早つつじ祭りの集客は減少したものの、のんのこ諫早まつりの集客増や宿泊施設の新規開業による宿泊客増などのプラス要因もあり、観光客延べ数は横ばいの199万人であった。

大 村 市：数年前から福岡都市圏を中心に積極的に情報発信を実施しており、体験型観光が好評であることや、他市町でのイベントと組み合わせたバスツアーが増加していることなどのプラス要因から、観光客延べ数は4年連続で増加し、1.8%増(+18千人)の98万人となった。

平戸・松浦・北松ブロック(271万人、対前年+3.0% +79千人)

平 戸 市：キリスト教関連遺産をめぐる「平戸キリシタン紀行」参加者の増加や農林漁業体験民宿への修学旅行生の受け入れ増加といったプラス要因も見られたが、燃油価格の高騰や景気後退等の影響により、観光客延べ数は5.1%減(90千人)となった。

松 浦 市：新鮮な海産物を売りにしたグルメ観光が定着しつつあり、市内への宿泊を伴うツアー等も増加している。また、農林漁業体験民宿への修学旅行生の受け入れが大幅に増加しており、これらのプラス要因から宿泊客が対前年7.2%増(+7千人)となり、観光客延べ数も増加した。

西海ブロック(102万人、対前年 13.1% 154千人)

西 海 市：平成19年秋に観光施設と宿泊施設が廃業した影響から、日帰り・宿泊ともに減少し、観光客延べ数は、対前年13.1%減となった。

五島ブロック(121万人、対前年 1.0% 12千人)

五 島 市：航路運賃の値上げ等のマイナス要因があったものの、修学旅行での来島が大幅に増加したことや大型客船の入港数の増加、教会群への注目の高まりなどのプラス要因もあり、観光客延べ数はほぼ横ばいを維持した。

新上五島町：教会群を強く打ち出した誘客活動により、巡礼をテーマとしたツアーなどが増加傾向にある。しかしながら、燃油価格の高騰に伴う航路運賃の値上げが昨年に引き続いてマイナス要因として作用し、観光客延べ数は、対前年6.3%減(13千人)と、大きく減少する結果となった。

壱岐ブロック(59万人、対前年 3.2% 19千人)

壱 岐 市：5年ぶりに増加に転じていた修学旅行生が再び減少したことや、原油価格高騰の影響により船舶の運賃値上げや航路の減便が行われたことから、観光客延べ数は前年に引き続いて減少し、対前年3.2%減の59万人となった。

対馬ブロック(79万人、対前年+3.4% +26千人)

対 馬 市：国内航路・空路の利用状況を見ると、国内からの入り込み客数は減少していると考えられるが、上半期に韓国人観光客が大幅に増加したため、全体とし

て宿泊客は6.1%増(+35千人)となり、観光客延べ数の増加につながった。なお、韓国人観光客増加の理由としては、手軽に行ける外国としての対馬人気の高まりがあると考えられるが、9月以降は円高の進行や経済情勢の悪化により半減している。

表2 ブロック別観光客数

(単位:人、%)

年 ブロック別	平成16年	前年比	平成17年	前年比	平成18年	前年比	平成19年	前年比	平成20年	前年比
県計	28,208,130	7.5	28,900,152	2.5	28,906,475	0.0	28,641,420		28,241,169	1.4
長崎	5,557,556	18.1	5,561,529	0.1	5,845,044	5.1	5,822,884	0.4	5,765,674	1.0
佐世保	7,099,973	5.8	7,539,111	6.2	7,912,358	5.0	7,533,730		7,139,821	5.2
島原半島	6,060,981	6.8	6,048,218	0.2	5,667,310	6.3	5,915,811	4.4	6,029,351	1.9
諫早	2,792,294	1.1	3,106,784	11.3	2,988,299	3.8	2,960,982	0.9	2,979,434	0.6
平戸・松浦 北松	2,799,628	0.5	2,674,788	4.5	2,696,798	0.8	2,628,508	2.5	2,707,111	3.0
西海	1,352,135	3.4	1,349,203	0.2	1,232,743	8.6	1,175,609	4.6	1,021,436	13.1
五島	1,194,847	8.0	1,281,979	7.3	1,225,378	4.4	1,226,417	0.1	1,214,045	1.0
壱岐	653,393	0.9	641,219	1.9	614,126	4.2	608,952	0.8	589,466	3.2
対馬	697,323	2.4	697,321	0.0	724,419	3.9	768,527	6.1	794,831	3.4

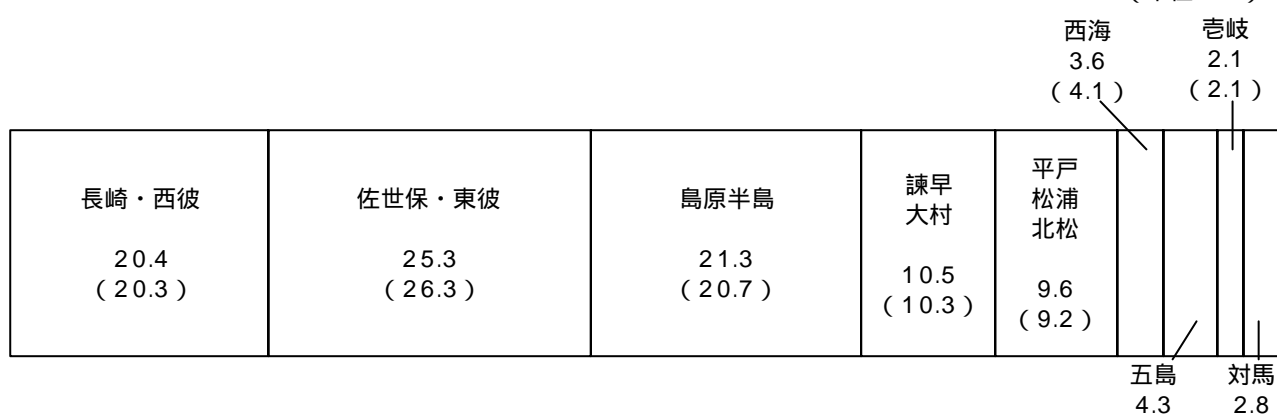
注1) 「佐世保・東彼」の平成19年は、佐世保市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

そのため、県計と「佐世保・東彼」の前年比は「-」としている。

注2) 平成16, 17年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

図2 平成20年 ブロック別観光客構成比

(単位:%)



注) ( )内は、再算定後の数値を用いた平成19年の構成比

図2によりブロック別構成比を見てみると、最も構成比が高かったのは、昨年と変わらず「佐世保・東彼ブロック」で25.3%であった。一方で、外国人観光客の減少の影響を強く受けたこともあり、構成比の減少幅が最も大きかったのも「佐世保・東彼ブロック」であった（前年比1.0ポイント減）。逆に、増加幅が最も大きかったのは、「島原半島ブロック」で対前年ポイント増、続いて体験型観光による集客が増加した松浦市やつつじ祭り等の集客が回復した鹿町町などを抱える「平戸・松浦・北松ブロック」の0.4ポイント増となっている。

図3により過去20年間の年次別動向をみると、「長崎・西彼ブロック」は、平成2年の長崎「旅」博覧会での伸び、平成3年の反動減による落ち込み、平成4年のいわゆるハウステンボス効果による伸びを見せ、あぐりの丘（長崎市）、飛島磯釣り公園（旧高島町）のオープン効果が大きかった平成10年にピークを迎えた。その後は伸び悩んでいたが、平成18年は“さるく博”効果により増加した。

「佐世保・東彼ブロック」は、平成4年3月のハウステンボス開業から「世界焔の博覧会」効果が見られた平成8年まで増加傾向を維持した後、減少傾向に転じた。その後、グルメ観光、西海パールリゾートの集客増、ハウステンボスのリニューアル効果などにより平成17年から3年連続で大幅な増加を続けていたが<sup>(注)</sup>、平成20年には外国人観光客が大幅に減少した影響を強く受け、減少に転じる結果となった。

「島原半島ブロック」は、平成2年11月の雲仙普賢岳噴火の影響により、平成3年に大きく減少した。噴火活動が終息した平成9年以降も平成2年の水準までは回復しておらず、平成12年にながさき阿蘭陀年・島原半島キャンペーンなどによって大きく伸びた後は減少傾向が続いていたが、平成19年には、火山都市国際会議の開催（島原市）や、宿泊施設の営業戦略が奏功したことなどにより5年ぶりに増加に転じ、景気が後退局面に入った20年も好調を維持している。

「諫早・大村ブロック」は、平成8年の「世界焔の博覧会」時をピークに減少を続けた後、再び増加傾向に転じて平成17年には過去最高を記録した。近年は2年連続で減少していたが、平成20年は3年ぶりに増加している。

「平戸・松浦・北松ブロック」は、生月大橋が開通した平成3年及び平成4年に大きく増加し、その後は横ばい状態が続いている。

「西海ブロック」は、平成4年にハウステンボス開業に伴い、長崎オランダ村からハウステンボスへと客の流れがシフトしたために急激な落ち込みがあった。その後はほぼ横ばいで推移したものの、平成12年以降は減少傾向にある。

「五島ブロック」は、小幅な増減を繰り返しながらほとんど横ばいの状態が続いている。

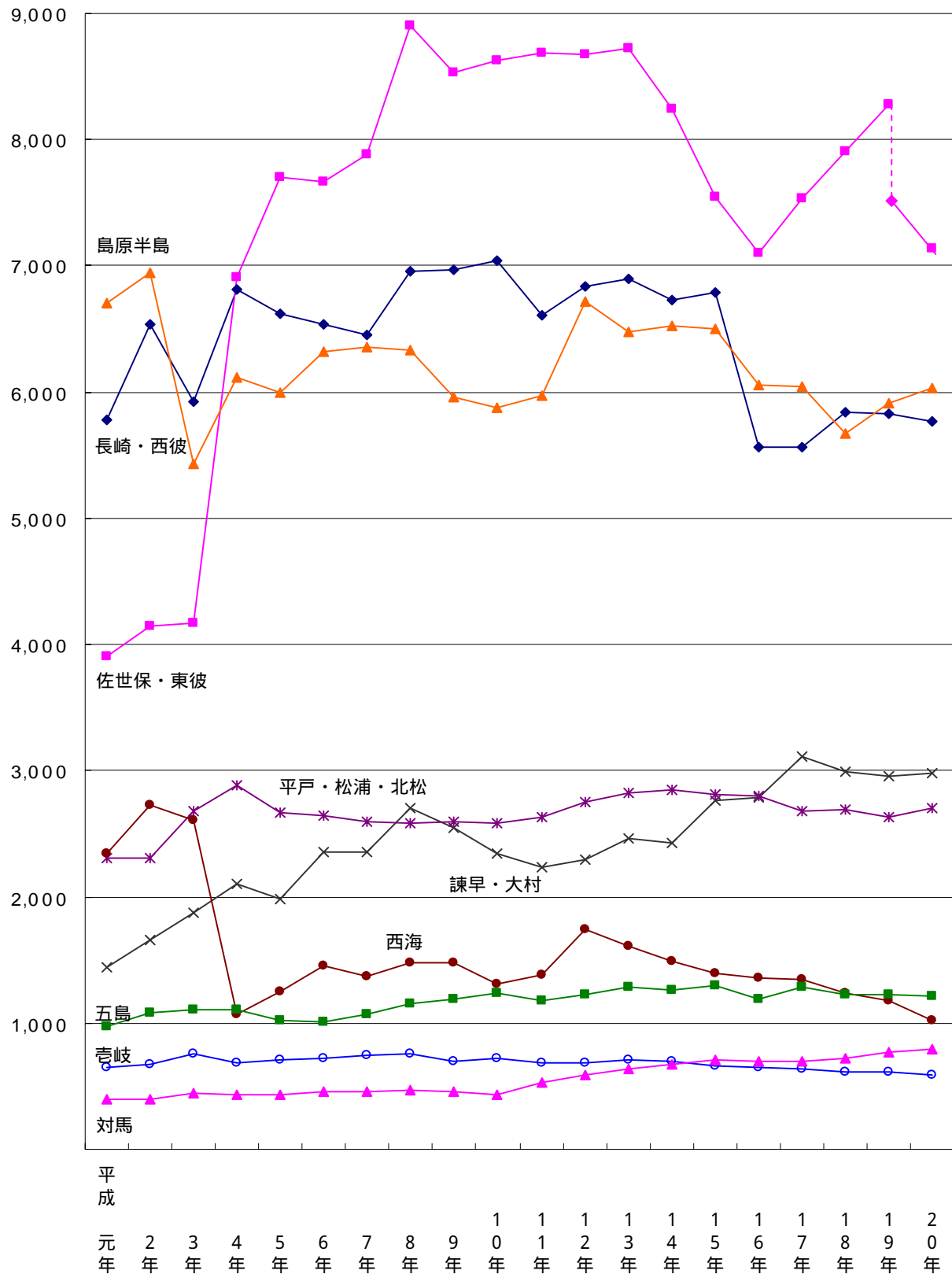
「壱岐ブロック」は、平成13年をピークとして、7年連続で減少している。

「対馬ブロック」は、ほとんど横ばいの状態が続いていたが、韓国人観光客の増加を背景に近年増加傾向にある。

注) 佐世保市において平成20年から観光客数の算定方法が一部変更されており、20年と19年を正確に比較するため、19年の数値に限り、20年と同じ算定方法で遡及して推計する“再算定”を行っている。そのため、平成19年以前と19年以降の「佐世保・東彼ブロック」の数値は連続しない。

図3 ブロック別年次別観光客数の推移

(単位：千人)



注1)「佐世保・東彼」ブロックでは、再算定が実施されているため、平成19年以前と平成19年以降の数値は連続しない。

注2)平成14,15,16,17年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

### (3) 日帰り・宿泊別観光客の動向

観光客を日帰り客、宿泊客に分けて動向を見ると、日帰り客は17,086千人(前年比0.8%減)、宿泊客は11,155千人(前年比2.3%減)と、どちらも減少した。

また、両者の構成比は、日帰り客60.5%(前年は60.1%)、宿泊客39.5%(前年は39.9%)であった。近年、宿泊観光から日帰り観光へのシフトに歯止めがかかりつつあったが、平成20年には一転し、3年ぶりに日帰り客の割合が高まっている。

(表3、表4参照)

表3 ブロック別日帰り・宿泊客数

(単位：人、%)

	日帰り客数			宿泊客延滞在数			平均宿泊日数
	平成18年	平成19年	平成20年	平成18年	平成19年	平成20年	
県計	17,778,715	17,226,737	17,086,474	11,127,760	11,414,683	11,154,695	1.60
	1.3		0.8	2.2		2.3	1.60
長崎・西彼	3,263,764	3,247,804	3,253,002	2,581,280	2,575,080	2,512,672	2.80
	1.6	0.5	0.2	9.9	0.2	2.4	2.79
佐世保・東彼	4,931,519	4,328,092	4,098,430	2,980,839	3,205,638	3,041,391	1.16
	4.7		5.3	5.4		5.1	1.15
島原半島	3,922,639	4,122,623	4,195,819	1,744,671	1,793,188	1,833,532	1.16
	7.3	5.1	1.8	4.0	2.8	2.2	1.16
諫早・大村	2,306,132	2,248,486	2,276,645	682,167	712,496	702,789	1.18
	4.4	2.5	1.3	1.8	4.4	1.4	1.17
平戸・松浦 北松	1,690,726	1,647,672	1,758,232	1,006,072	980,836	948,879	1.58
	1.5	2.5	6.7	0.2	2.5	3.3	1.54
西海	1,040,009	1,016,263	903,107	192,734	159,346	118,329	1.10
	8.8	2.3	11.1	7.7	17.3	25.7	1.37
五島	350,799	351,154	348,315	874,579	875,263	865,730	2.34
	4.4	0.1	0.8	4.4	0.1	1.1	2.34
壱岐	79,690	78,893	76,276	534,436	530,059	513,190	1.99
	1.0	1.0	3.3	5.0	0.8	3.2	2.27
対馬	193,437	185,750	176,648	530,982	582,777	618,183	2.15
	2.1	4.0	4.9	4.6	9.8	6.1	2.13
							2.10

注1) 下段は前年比(単位：%)

注2) 平均宿泊日数は、上段が平成18年、中段が平成19年、下段が平成20年の値

注3) 「佐世保・東彼」の平成19年の日帰り観光客数、宿泊客延滞在数は、佐世保市再算定後の数値である。そのため、県計と「佐世保・東彼」の前年比は「-」としている。

注4) 平成19年の平均宿泊日数は、再算定後の数値を用いて算出している。

#### (4) 地元・県内・県外別観光客の動向

観光客の動向を地元・県内・県外に区分して実数でみると、

地元客 3,011千人で前年比1.3%増(39千人の増)  
 県内客 6,105千人で前年比2.2%増(132千人の増)  
 県外客 12,241千人で前年比3.4%減(434千人の減)

となっており、県外客が減少した一方で、地元客、県内客は増加する結果となった。

(表4参照)

また、観光客実数21,357千人(前年比1.2%減)に対する地元:県内:県外の構成比は、14:29:57となっており、県外客の占める割合が最も高い。県外客の割合は近年増加傾向にあったが、平成20年には地元客・県内客の割合が上昇し、県外客の割合は減少した。

(表4、図4参照)

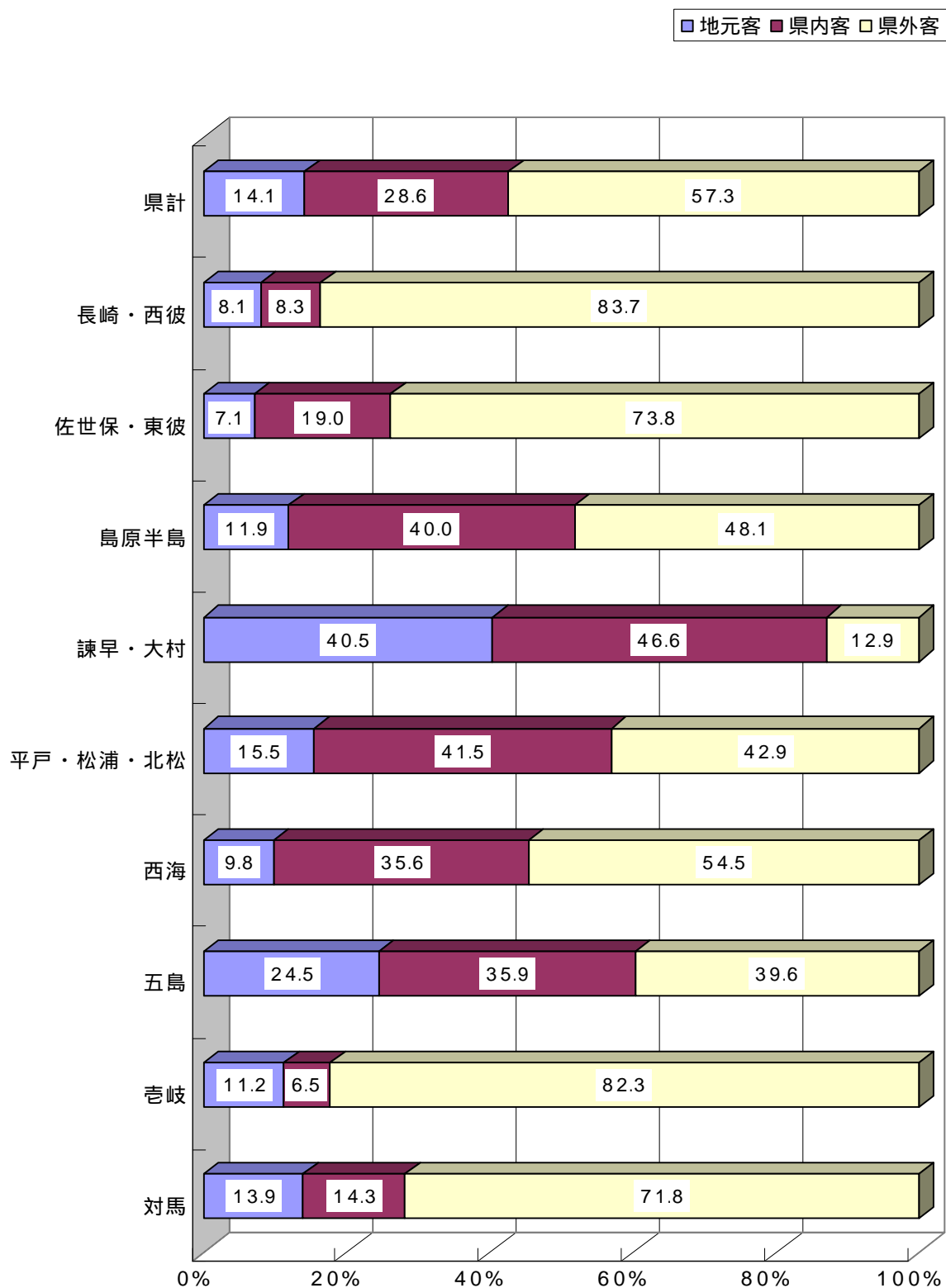
表4 観光客延数・実数

(単位:人、%)

項目	年	16年 構成比	17年 構成比	18年 構成比	19年 構成比	20年 構成比	前年比
観光客延数		28,208,130 100.0	28,900,152 100.0	28,906,475 100.0	28,641,420 100.0	28,241,169 100.0	1.4
日帰り客数		17,100,884 60.6	18,009,465 62.3	17,778,715 61.5	17,226,737 60.1	17,086,474 60.5	0.8
宿泊客延滞在数		11,107,246 39.4	10,890,687 37.7	11,127,760 38.5	11,414,683 39.9	11,154,695 39.5	2.3
延宿泊数		6,790,716 -	6,677,226 -	6,853,259 -	7,022,367 -	6,884,501 -	2.0
宿泊客実数		4,316,530 -	4,213,461 -	4,274,501 -	4,392,316 -	4,270,194 -	2.8
平均宿泊数		1.57泊 -	1.58泊 -	1.60泊 -	1.60泊 -	1.61泊 -	-
観光客実数		21,417,414 100.0	22,222,926 100.0	22,053,216 100.1	21,619,053 100.0	21,356,668 100.0	1.2
地元客		2,794,462 13.0	3,134,581 14.1	3,097,665 14.1	2,971,487 13.7	3,010,931 14.1	1.3
県内客		6,462,652 30.2	6,590,215 29.7	6,311,403 28.6	5,972,584 27.6	6,105,065 28.6	2.2
県外客		12,160,300 56.8	12,498,130 56.2	12,644,148 57.3	12,674,982 58.6	12,240,672 57.3	3.4

注)平成16,17,19年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

図4 平成20年 ブロック別地元客・県内客・県外客の構成比



## (5) 外国人宿泊客の動向

外国人宿泊客延滞在数は、県内各市町・関係団体、宿泊施設などの誘致活動も奏功し、平成15年のビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）開始以降、全国平均を上回る大幅な増加を見せていたが、平成20年は一転して対前年6.6%減となり、88万4千人であった（宿泊客実数は38万5千人、対前年3.1%）。

国・地域別に見ると、宿泊客数が多い順に韓国、台湾、米国、香港、中国の順となっている。外国人宿泊客の6割近くを占める韓国については、急速に進行した円高と経済情勢の悪化が重なり、5.9%減少した。一方、ほとんどの国・地域からの宿泊客が減少傾向にある中で、シンガポール及びタイからの宿泊客は増加した。

国際観光船については、中国からの国際観光船「コスタ・アレグラ号」が前年の13隻から3隻と減少したことが主要因となり、全体で14隻減の27隻となった。

表5 外国人宿泊客数（宿泊客延滞在数）の推移（県全体）

（単位：人、%）

	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
県計	151,759	259,172	419,067	503,100	503,304	399,996
対前年比	-	70.8	61.7	20.1	0.0	20.5

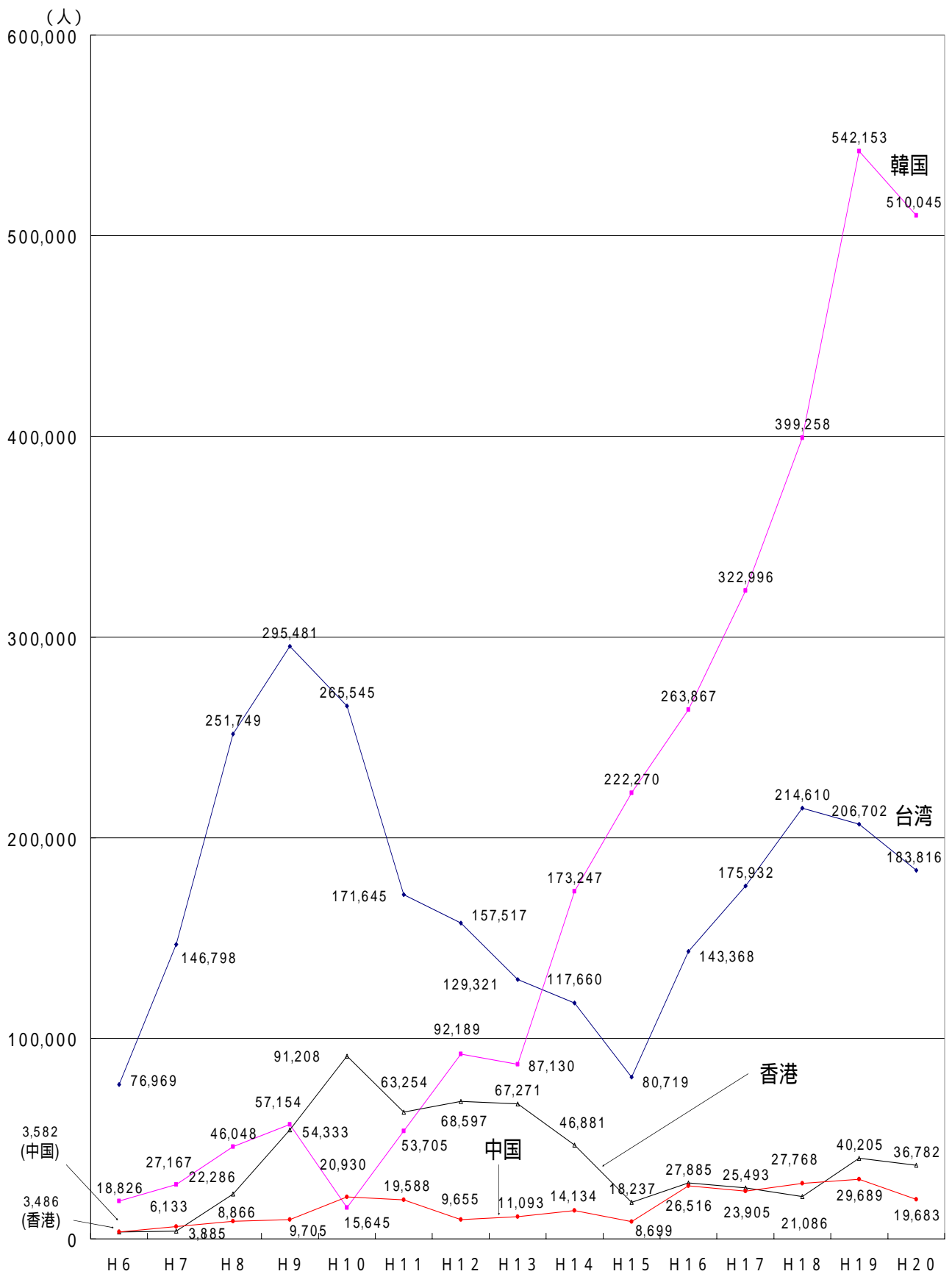
	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
県計	433,724	405,424	442,653	436,505	575,223	672,761
対前年比	8.4	6.5	9.2	1.4	31.8	17.0

	平成18年	平成19年	平成20年
県計	783,212	945,870	883,602
対前年比	16.4	20.8	6.6

注）外国人宿泊客数（宿泊客延滞在数）については、平成6年から調査開始している。

図5 東アジア主要4カ国・地域の外国人宿泊客数（宿泊客延滞在数）の推移



## (6) 修学旅行宿泊客の動向

修学旅行宿泊者数は、これまで減少傾向が続いていたが、県・市町一体となった集中的なセールス活動が奏功し、修学旅行統計の調査、公表を始めた平成12年以来、初めて増加に転じた。

市町別に見ると、構成比の大きな長崎市、佐世保市で増加に転じたほか、雲仙市でもほぼ横ばいとなっている。また、松浦市や小値賀町など体験型観光や農林漁業体験民宿に取り組んでいる地域では、その成果が定着しつつあり、多数の市町で大幅に増加する結果となった。

表6 市町別修学旅行宿泊者数

(単位：人、%)

	平成18年	平成19年	平成20年	前年比
県計	395,715	390,768	408,732	4.6
長崎市	277,000	266,400	271,700	2.0
佐世保市	43,111	52,334	54,048	3.3
島原市	8,310	10,401	10,047	3.4
雲仙市	30,626	29,885	28,911	3.3
諫早市	4,501	3,879	5,344	37.8
西海市	134	0	0	—
平戸市	10,108	6,670	10,348	55.1
松浦市	7,148	6,102	10,737	76.0
五島市	4,631	2,085	4,295	106.0
新上五島町	155	129	0	100.0
壱岐市	7,343	8,737	7,188	17.7
対馬市	0	1,092	1,220	11.7
川棚町	2,548	2,405	2,489	3.5
小値賀町	0	380	1,283	237.6
鹿町町	100	269	1,122	317.1

注1) 市町調査(聞き取り)による数値

長崎市については、市発表の団体客(学生客)の数であるため、日帰り客を含む

注2) 平成19年については、一部市町の数値に修正を加えている。

外国人修学旅行生を加えたことによる修正 対馬市

注3) 実績がある市町のみ掲載している。

### 3. 長崎県の観光消費額の動向

#### (1) 平成20年の観光消費額

**観光消費額 2,508億円 (対前年1.5%減)**

平成20年1月から12月まで

～ 平成19年の2,547億円と比べ、39億円の減少 ～

1人1日当たりの平均消費額 日帰り客 6,079円(対前年0.2%減)  
 宿泊客 18,735円(対前年0.1%増)

表7 観光消費額

(単位：百万円、%)

項目	年	15年	16年	17年	18年	19年	19年	20年
県計		268,745	248,400	248,693	254,059	259,901	254,660	250,752
前年比		2.3	7.6	0.1	2.2	2.3	-	1.5
日帰り客計		109,678	104,569	106,700	107,112	108,381	104,886	103,877
前年比		4.0	4.7	2.0	0.4	1.2	-	1.0
交通費		33,570	32,577	34,083	33,679	34,189	33,039	33,586
飲食・娯楽費		42,099	38,905	39,358	40,470	40,525	39,187	37,749
土産・その他		34,009	33,087	33,259	32,963	33,667	32,660	32,542
宿泊客計		159,067	143,831	141,993	146,947	151,520	149,774	146,875
前年比		1.1	9.6	1.3	3.5	3.1	-	1.9
宿泊費		75,984	67,914	66,775	69,880	72,229	71,605	69,918
交通費		35,429	33,278	33,617	35,352	36,622	36,134	36,024
飲食・娯楽費		34,230	30,552	29,668	29,814	30,574	30,107	29,305
土産・その他		13,424	12,087	11,933	11,901	12,095	11,928	11,627

注1) 「19年」は、佐世保市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。  
 そのため、前年比は「-」としている。

注2) 平成15、16、17年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である

#### (2) 日帰り客の動向

日帰り客の消費額は、1,038億7,684万円(前年比1.0%減)で、その構成比は、41.4%であった。1人あたりの平均消費額は、6,079円(0.2%減)で、費目別に見ると、交通費1,966円(2.5%増)、飲食・娯楽費2,209円(2.9%減)、土産・その他1,905円(0.5%増)となっている。(表7、表8参照)

### (3) 宿泊客の動向

宿泊客の消費額は、1,468億7,469万円(前年比1.9%減)で、その構成比は、58.6%となっている。1人当たりの平均消費額は、18,735円(0.1%増)で、費目別に見ると、宿泊費10,156円(0.4%減)、交通費3,229円(2.0%増)、飲食・娯楽費2,627円(0.4%減)、土産・その他2,723円(0.3%増)となっている。(表7、表8参照)

なお、「1世帯当たりの旅行関連支出」は、前年比0.7%減であった。(参考2参照)

表8 1人当たりの平均消費額

(単位：円、%)

項目 \ 年	15年	16年	17年	18年	19年	19年	20年
日帰り客計	6,049	6,115	5,924	6,025	6,068	6,089	6,079
前年比	2.0	1.1	3.1	1.7	0.7	-	0.2
交 通 費	1,851	1,905	1,892	1,894	1,914	1,918	1,966
飲 食 ・ 娯 楽 費	2,322	2,275	2,185	2,276	2,269	2,275	2,209
土 産 ・ そ の 他	1,876	1,935	1,847	1,854	1,885	1,896	1,905
宿泊客計	18,609	18,548	18,643	18,837	18,755	18,715	18,735
前年比	1.3	0.3	0.5	1.0	0.4	-	0.1
宿 泊 費	10,250	10,001	10,000	10,197	10,203	10,197	10,156
交 通 費	2,832	2,996	3,087	3,177	3,178	3,166	3,229
飲 食 ・ 娯 楽 費	2,800	2,751	2,724	2,679	2,653	2,638	2,627
土 産 ・ そ の 他	2,727	2,800	2,832	2,784	2,721	2,716	2,723

注1) 各費目の平均消費額は、以下の数値を掲載している

「宿泊費」：1泊当たりの額

「交通費」、「飲食・娯楽費」：1日当たりの額

「土産・その他」：旅行1回当たりの額

注2) 「19年」は、佐世保市の統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

そのため、前年比は「-」としている。

注3) 平成15, 16, 17年は、一部市町での統計手法見直しに伴う再算定後の数値である。

### (参考2) 1世帯当たりの旅行関連支出の推移(国土交通省作成)

(単位：円、%)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
旅行関連支出	132,815	130,797	124,238	126,126	125,242
前年比	6.3	1.5	5.0	1.5	0.7

注1) 「平成21年版観光白書」(国土交通省)より引用。

注2) 旅行関連支出とは、「宿泊費(宿泊料、パック旅行)」、「交通費(鉄道運賃、航空運賃、有料道路料、他の交通)」、「旅行用かばん」に支出した金額。